

飯田北小学校・いちよう小学校 小規模校対策検討委員会ニュース

発行日：平成24年8月28日

発行：検討委員会事務局

第2回検討委員会 開催

☆平成24年8月2日（木）19時30分から
上飯田地区センター 工芸室

話し合われたこと・決まったこと

- 周辺校との通学区域の変更により、飯田北小学校、いちよう小学校を、適正規模校（12～24学級）にすることは難しいことを確認しました。
- 小規模校対策の方向性について検討を行い、飯田北小学校といちよう小学校の統合を前提として今後の検討委員会を進めていくことを確認しました。
- 第3回の小規模校対策検討委員会では、統合する場合に利用する学校施設と、時期について話し合うことになりました。

※このニュースの児童数や学級数の見込みは、すべて平成24年度義務教育人口推計の推計値によります

1 飯田北小学校といちよう小学校の児童数の今後の見込み

両校とも、今後も緩やかに児童数が減少していく見込みとなっています。

飯田北小学校	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	普通教室数
児童数	164	164	149	139	127	123	114	16
学級数	6	6	6	6	6	6	6	

いちよう小学校	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	普通教室数
児童数	161	151	159	157	150	140	145	24
学級数	6	6	6	6	6	6	6	

横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針（抜粋）

小規模校の問題を解消し、教育環境を改善するとともに、効果的・効率的な学校経営を行うために、地域と十分に調整を図り、保護者・地域住民の理解と協力を得ながら、通学区域の変更等を行い学校規模の適正化を推進する。

また、通学区域の変更・弾力化等が実施できない場合や実施によっても小規模校が解消しない場合については、学校の統合について検討を進めることとする。



まず、周辺校との通学区域を調整することで両校を適正規模化できないか、検討を行いました。

2 周辺校の児童数、学級数の推移見込み（周辺校の現状）

上飯田小学校	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	普通教室数
児童数	558	568	569	586	571	544	503	21
学級数	18	18	17	18	18	18	18	

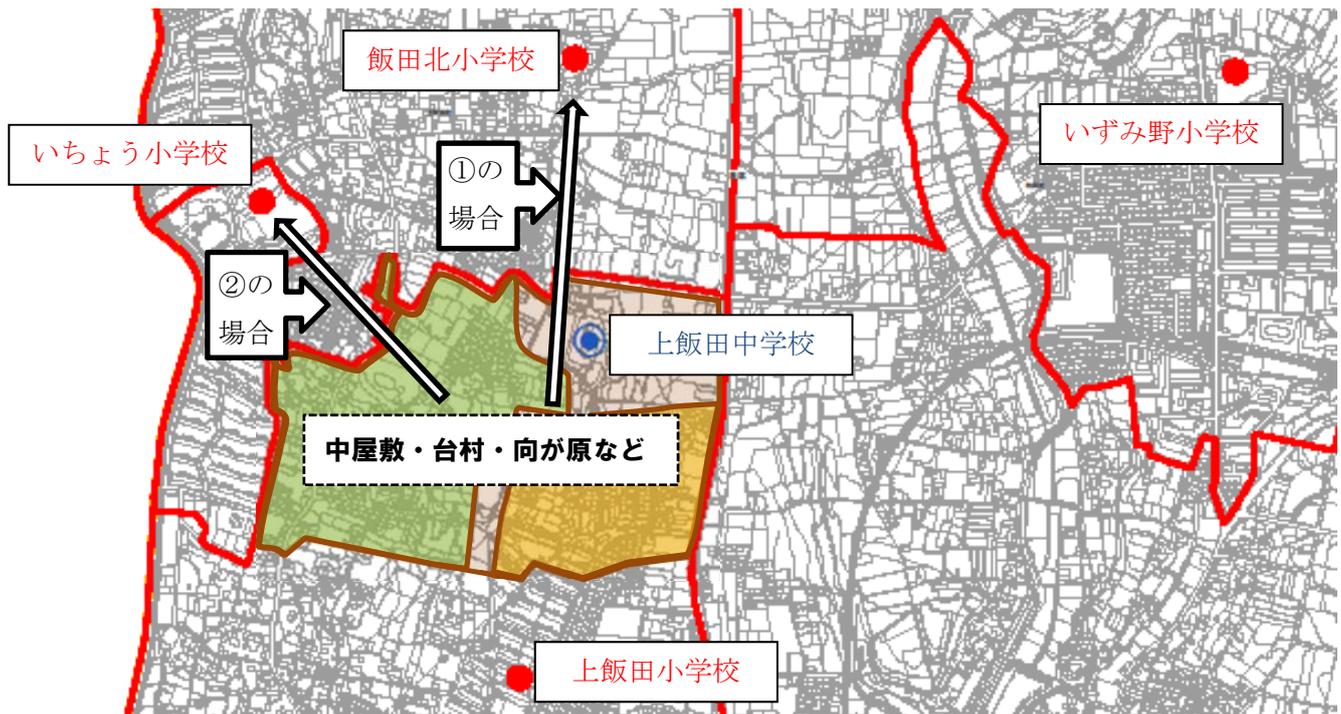
瀬谷さくら小学校	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	普通教室数
児童数	414	420	427	405	381	402	395	19
学級数	13	13	14	14	13	14	14	

※下瀬谷小学校と日向山小学校が統合し、平成22年4月に開校

いずみ野小学校	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	普通教室数
児童数	344	334	326	328	321	297	304	17
学級数	13	12	12	12	12	12	12	

3 通学区域の変更による小規模校の解消について

飯田北小学校、いちよう小学校に近い地域を、仮に上飯田小学校から変更した場合について検討を行いました。



●対象区域を「飯田北小学校」又は「いちよう小学校」に変更をした場合の児童数の見込み

①の場合	飯田北小学校	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	普通教室数
	平成24年度推計 児童数	164	164	168	171	174	178	177	16
	学級数	6	6	7	7	7	7	6	

②の場合	いちよう小学校	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	普通教室数
	平成24年度推計 児童数	161	151	180	191	197	194	207	24
	学級数	6	6	7	8	9	8	7	

事務局からの説明 通学区域の調整による小規模校対策について

周辺校との通学区域の調整については

- ・瀬谷さくら小学校は平成22年に統合したばかりであり、再度通学区域の調整をすることは、地域や学校の負担が大きくなるため、困難です
 - ・いずみ野小学校は適正規模校ですが12～13学級と比較的小さな学校のため、通学区域の変更を行うことで、今後小規模校となる可能性があり、困難です
 - ・上飯田小学校の通学区域を一部取り込んだ場合でも、適正規模校の12学級にならないため、小規模校対策の抜本的な解決にはなりません
- 以上の理由により、通学区域の調整による小規模校対策は困難だと考えます。

4 検討委員会での主な質問・発言 (☆質問 →事務局の回答等 ★発言)

★いちょう小にしても飯田北小にしても、外国につながる児童が多い。12学級以上といったクラス数だけで今後の方向性を判断するのはどうか。また、いちょう小の今年の1年生は16人中、日本人は5人だけだということで、外国の子どもにあわせた教育になってしまわないか。教育委員会ではどのように対応していくつもりなのか、はっきりしてほしい。

→仮に統合した場合は、日本語指導が必要な児童が増えるので、その対応を考えないと統合したメリットを活かしくいのは事実だと思います。具体的に日本語指導が必要な児童の増加にきちんと対応するため、教員の人数を上乗せするといったような教員の配置や国際教室のあり方など、現在、教育委員会で検討しているところです。内容が取りまとめ次第、検討委員会でも報告をさせていただきます。

☆中学校でも色々な問題が出ているようだ。外国籍や外国につながる児童が増えると、習熟度の問題などで教育のバランスが取りにくくなるのではないかな。

→公立学校では教育課程の基準が決まっているため、外国籍や外国につながる児童が多くても内容に差はありません。また外国籍の児童でも日本で生まれて日本語も問題のない子どもは多いので、国籍などではなく、学習の進み具合で少人数に分けて授業を進めています。ただし、家庭で日本語を使っていないと日本語の語彙が増えにくく、小学校では問題にならなくても、中学校では微妙な日本語の表現がでてくるため、授業や高校の入試などに影響してくるのかもしれない。

★現在どちらの学校も防災拠点になっている。子どものために良いというなら統合には賛成だが、学校の跡地、地域の防災拠点はどうなるのか。こういったことについて今後説明をしてほしい。

★今回統合しても子どもの人数が減ると、また小規模になる可能性がある。少子化が進んでいる中、子どもが少なくなっても統合せずうまくやっていく方向を考えることも大切ではないか。また、子どもがたくさんいると行政から支援が得られる地域もある。これは横浜市だけの問題ではないが、この先のことを考えると、少子化対策についても行政は考えていく必要があるのではないかな。

☆両校とも子どもたちは外国籍という意識はなくて、両校の間で年3、4回交流もしている。個別支援級の子もたちとも交流していてすごく仲がいい。外国籍を重視するのもわかるが、もっと子どもたちに重点を置いて検討してもらいたい。また、ニュースにはもっとルビを振ってほしい。

→次回のニュースは、紙面を工夫して、ルビを振るようにしていきます。

5 小規模校対策の方向性について

いままでの資料や説明のとおり、通学区の変更による小規模校の
解消（適正規模化）は難しい状況にあることを確認しました。



飯田北小学校といちょう小学校について、統合を前提として今後の
検討委員会を進めていくことを確認しました。

6 第3回検討委員会での検討項目について

第3回検討委員会では、統合時の利用施設と統合時期を検討することが了承されました。

【意見など】

☆委員は両校の関係者なので、学校をどちらにしようというのは意見が言いにくいのではないかと

→確かにそのようなこともあると思います。委員の皆さんには単純にどちらの施設が新しいとかではなく、通学距離や通学安全なども総合的に考えた上で、子どもたちにとって、どちらの施設を使うのがいいのかという視点で検討していただければと思います。

☆過去の統合では、規模の大きい学校を統合後の学校として使っているのか？

→色々な場合があります。敷地が狭い方を使っていたり、古い校舎の方を使っているところもあります。特に決まった考え方はありません。

【次回：第3回検討委員会の日程】

★平成24年9月14日（金） 19時30分から

- （検討予定内容）
1. 統合する場合の利用施設について
 2. 統合する時期について
 3. その他



「飯田北小学校・いちょう小学校」小規模校対策検討委員会の経過、横浜市の基本方針等はインターネットでも見ることができます。

・「飯田北小学校・いちょう小学校」小規模校対策検討委員会：

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/gakku/shoukibo/>

・基本方針等：

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/kyoiku-info/gakku-houshin.html>

「飯田北小学校・いちょう小学校」小規模校対策検討委員会では、

皆さまからのご意見を受け付けております。FAXかEメールで、

事務局（学校計画課）までご連絡ください。

● 「飯田北小学校・いちょう小学校」
小規模校対策検討委員会事務局
（学校計画課）

電話 045-671-3252

FAX 045-651-1417

Eメール ky-izumi@city.yokohama.jp

